

【建設通信新聞 令和4年12月13日】

前に踏み出す一歩

群馬建協がICT施工研修修了式



群馬県建設業協会（青柳剛会長）は9日、2022年度のi-Constructi on対応ICT施工研修修了式を前橋市の群馬建設会館で開いた。写真は、6年目となる今回は10人が出席した。

青柳会長は「建設業は一品一品現地生産が特徴のため、

技術を中軸に据えながら組織がまとまれば、筋肉質の組織ができあがる。研修の成果は、参加企業にとっても、前に踏み出す確実な一歩になる」とあいさつした後、受講者代表の岩崎楓さん（河本工業）に修了証を手渡した。

続いて受講者を代表して瑞穂建設の金子嘉朗さんが「今回学んだ知識や技術を各企業で発揮し、さらなるスキルアップを目指し、チャレンジしていきたい。会社に貢献し、さらに地域に貢献できるスペシャリストになるよう頑張っていく」と述べた。

研修の企画・運営に携わった日本マルチメディア・イクイップメントの高田瑞規教育研修事業ディレクターは、総評で「今回の研修で終わりでなく日々、アンテナを高くして業務に生かせる新たな技術の習得に努めてほしい」と

話した。

全5日間の講義で、3次元測量とUAV（無人航空機）などによる起工測量、3次元点群データ作成、3次元データ検査・納品、施工計画実習などを学んだ。

群馬建協 ICT施工研修、10人が修了 企業が前に踏み出す確実な一歩に

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は9日、2022年度ICT施工研修の修了式を開き、会員企業の参加者10人に修了証を交付した。実習を伴う5日間で、3Dデータを駆使した起工測量や出来形管理といったICT施工のポイントを学んだ。小規模現場を想定した実習やモバイル端末を利用した講義も行った。

受講者代表の河本工業の岩崎楓さんに青柳会長が修了証を手渡した。写真。瑞穂建設の金子嘉朗さんが「ICT施工は生産性の向上に欠かせない。スキルアップを目指し、会社と地域に貢献できるスペシャリストになりたい」と感想を述べた。

青柳会長は「研修は6年目になった。新たな企業が加わり、技術者同士で新しいコミュニケーションができたと思う。研修の成果は企業が前に踏み出す確実な一歩になる」とあいさつした。公共工事で導入が進んでいる遠隔臨場について、「動画保存など生産システムとは少し違う方向に進み出している」と指摘しながらも、「現場担当技術者のストレスが減ったと思う。地域密着をITが促進できる形になればいい」と述べた。

研修などを担当した日本マルチメディア・イクイッ

プレメントの高田瑞規氏は「ICTの進化が早く、アプリケーションを高く、業務に生かせる技術を習得してほしい。協会はフォローアップの研修も開く。知識のアップデートの場にしてほしい」と講評した。研修には群馬県建設業青年経営者部会が協力した。

